

退任あいさつ

前麻酔科学講座教授 松川 隆

大変お世話になり、ありがとうございました。

3月31日付で定年退官しました。



私は、山梨市出身で山梨北中学校から日川高校、群馬大学医学部へ進学し、卒業後の1985年(昭和60年)4月から当院で脳神経外科医師として勤務を始めました。大学の軟式テニス部の大先輩である貫井先生が脳神経外科医の初代教授だったことがご縁となりました。3年後の1988年(昭和63年)に、手指のアレルギー反応が原因で脳神経外科医を続けることが非常に難しくなったため、円満な形で同年4月から麻酔科(初代・熊澤教授)に転科しました。

1992年(平成4年)に手術部副部長、2006年(平成18年)11月に麻酔科教授に就任し、以後18年

5ヶ月務めさせていただきました。その間、薬事審議委員会委員長(2回)、材料部長、医療機器安全管理責任者として、多くのスタッフの皆さんのご協力を得て、病院の円滑な運営に微力ながら貢献できたことは大変嬉しい思い出です。この職場での経験は、私にとってかけがえのないものであり、特に病院職員の皆さんとの協力や、患者さんとの関わりを通じて、多くのことを学びました。皆さんの支えがあったからこそ、これまで続けてこられたと心から感謝しております。

これからは当院で培った知識や経験を活かし、麻酔科医として山梨県の医療に貢献したいと考えています。

最後に、改めて感謝の気持ちを込めて、山梨大学医学部附属病院の益々のご発展と皆さんのご健康とご多幸をお祈りいたします。長い間、本当にありがとうございました。

退任あいさつ

前放射線技術部診療放射線技師長 相川 良人

感謝 — 退任にあたり —



令和7年3月末をもちまして、放射線技術部長(診療放射線技師長)としての役職定年を迎え、退任することとなりました。在職中の5年間は、放射線技術部および放射部門の診療にご理解とご協力をありがとうございました。

就任早々のCOVID-19対応、新病棟へのRI病室の移設、全国国立大学病院放射線技師オートムセミナーの開催、放射線技術部の開設、初期救急センターの対応、そして働き方改革など、常に課題に取り組み、あっという間に過ぎた5年間

でした。特に、限られた時間とリソースの中で、環境の変化や技術の進展、人材育成、設備更新、他部署との連携などをどう進めていくかに悩みましたが、院内のネットワークと優れたスタッフの支えにより、着実に問題解決を進めることができました。その中で、放射線技術部門としても成長しつつある姿を感じております。役職定年を迎えるにあたり、放射線技術部のスタッフが自ら考え、行動するチームとしての礎を築けたことに充実感を覚えています。今後もさらなる発展を期待しています。

最後に、ご指導、ご協力いただきました関係者の皆様、私を支えてくださったスタッフの皆様に心から感謝申し上げます。皆様のさらなる発展を心より願い、また、ご健康とご多幸をお祈り申し上げます。ありがとうございました。

退任あいさつ

前副看護部長 伊藤 雅美



この度、副看護部長の職を退任することとなりました。これまでの皆様の温かいご支援に心より感謝申し上げます。

山梨大学医学部附属病院にお世話になってから38年間、集中治療室、消化器外科・皮膚科混合病棟、手術室、整形外科病棟、医療の質・安全管理部を経験し、その後、看護部管理室に所属させていただきました。その間、多くの患者さんとの関わりから学びを得て、自分の力の無さや不甲斐なさに涙したことも何度もありました。患者さんにご迷惑をおかけしたインシデントも発生しましたが、そのような私が医療の質・安全管理部で9年間 GRM を務めさせていただけたことは貴

重な経験であったと思います。周囲の皆さまは自分の力を向上させ、人に配慮し、プロとしてより質の高い安全な医療を提供したい、提供出来る病院にしたいと真剣に取り組んでいる方々ばかりでした。その力に牽引されながら、また、自由な意見交換をお許しいただきながら問題解決に取り組む毎日はとてもやりがいのあるものでした。GRM として臨床現場にかかわる際には、あまり触れてほしくない事案であるにもかかわらず、医師の皆さまには真摯に、看護師・技師の皆さまには真剣に向き合っていただきました。未熟な私が貴重な経験を通して成長できましたことに、どれほどのご支援をいただいたかと振り返りますと感謝でいっぱいです。

今後の皆様のより一層のご活躍を祈念しております。本当にありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

退任あいさつ

前副看護部長 杉山 千里



この度、令和7年3月31日をもちまして、副看護部長の職を退任することとなりました。病院職員の皆様、関係者の皆様には、長年にわたり温かいご指導とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

昭和61年に新人看護師として入職し、39年間勤務いたしました。最初は慣れない業務に戸惑い、苦労の連続でしたが、皆様の支えのおかげでここまで続けることができました。この間、多くの病棟や診療科を経験し、幅広い看護を習得いたしました。特に ICU では、スタッフから副看護師長・看護師長を務め、16年間従事いたしました。重症患者の看護は、急変や合併症のリスクも高く緊張の毎日でしたが、患者さん

の回復を見る喜びは大きく、充実感をもって取り組むことができました。私の看護師人生の大きな糧となっています。また看護管理の修士課程を修了し、救急救命士や認定看護管理者資格の取得にも挑戦いたしました。

副看護部長としては、看護師教育を担当し、スタッフの成長を間近で見ることができました。コロナ禍では、前例のない状況下での研修で、多くの困難がありました。スタッフのレポートからは、患者さんのために一生懸命取り組む姿や成長がうかがえ、やりがいを持って業務に励むことができました。

今後も病院に残り、これまでの経験を活かし、後進の育成や看護の質向上に貢献したいと考えております。引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

退任あいさつ

前 INCU 看護師長 兼 看護部長補佐 萩原 千代子



今年3月31日 をもちまして、役職定年となりました。昭和61年に新採用者として山梨医科大学医学部附属病院に入職し、長きにわたり関係各所の皆様には大変お世話になり本当にありがとうございました。

入職当初は旧1階西病棟に配属され、その後、手術部、旧4階東病棟、安全管理部、副看護部長、6階北病棟、NICU 病棟で勤務してまいりました。とりわけ、中でも手術部勤務は約18年と長く、当時は手術室の準備や器械セット組、消耗品管理も全て看護師が行い、今では考えられないような危険な環境下で業務を行っていたことを思い出

します。また、一期棟の再整備にも携わらせていただき、設計段階から引っ越しまで医師や事務部門と共に検討したことも思い出されます。平成14年からは看護師長を拝命し、以降は看護管理者として務めさせていただきました。多くのスタッフや患者さんとの出会いや別れを経験する中で、自分がどうあるべきか、これで良かったのかと自問自答の日々でしたが、常に支えてくれた良き理解者や、いつも病棟で明るく元気に働いているスタッフの存在が私の支えとなったことは間違いありません。心より感謝しております。

4月1日からも、定年延長にて看護部で勤務させていただきます。どうぞこれからもご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

退任あいさつ

前特定行為研修センター看護師長 三平 まゆみ



昭和61年4月に採用され、旧5階東病棟（整形外科・麻酔科）、旧3階西病棟（小児科）、外来を経験し、再び旧5階東病棟（整形外科、眼科）、旧3階西病棟、外来に異動する経過をたどりしました。その後、入院オリエンテーション、病床管理、特定行為研修センターに配属となりました。

病棟勤務時は、病棟からの急を要する電話連絡に対応し、外来勤務時は職員の欠席連絡が届いていないかをメールとLINEで確認するため、携帯電話は常に手元に置いている状況でした。病床管理の際は、新型コロナウイルス対策で目まぐるしく変わる病床数に対応し、病棟看護師長とのやり取りに追われる日々でした。

看護師という職業を通して様々な人に出会い、人として成長させてもらい、また、患者一人ひとりに対して異なる対応を求められることで、看護師として患者さんに育ててもらいました。この病院で継続して勤務でき、学ぶ環境と体制が整っていたことに感謝しています。

私のロッカーには、小児科病棟で担当した患者さんが作ってくれた折り紙のペンダントがあります。30年以上、私の働きを見守って（見張って）くれました。何度か辞めようと思いましたが、周囲の支えがあって今日を迎えられました。今頃は天国で「よく頑張ったね」と言ってくれているのではないかと思います。最後に、未熟な私を支援くださった関係各部署の方々にお礼を申し上げ、挨拶とさせていただきます。

退任あいさつ

前医療情報課長 浅川 辰仁



この度、令和7年3月31日をもちまして定年を迎えることになりました。

皆様方には、これまで多くのご指導やご協力を賜り深く感謝申し上げます。

私は、開院を10月に控えた昭和58年4月に山梨医科大学に採用となり、以来、事務職として様々な業務に携わってまいりました。

開院当時在籍した医事課情報処理係では、朝当番が医事システムの起動スイッチを押すことから始まり、カルテや伝票の搬送はエレベーターやエスカレーターを使用しました。会計課ではカーボン紙を使って伝票を作成するアナログ時代でしたが、今となっては懐かしい思い出です。

時代はデジタル化へと進み、総務課情報処理係勤務時には、インターネット環境の構築（初代 iMac 配布）、PHS の導入など各種情報システムの整備に奔走しました。その後、大学統合の際には学内イントラ、メールアドレスの統一、また附属病院や医療情報システムの BCP 策定など多くの貴重な経験をさせていただきました。

医療情報には、令和2年12月に異動になり、当時の最大のミッションは電子カルテシステムの更新でした。それは、これまで経験したことがないほどのタフで緊張感のある経験でしたが、病院長をはじめ関係者の皆様、そして何より一緒に頑張ってきた課内メンバーのおかげで完了することができました。心より感謝申し上げます。

最後に皆様のご健勝を祈念いたしまして退任のご挨拶とさせていただきます。

長い間、本当にありがとうございました。

令和 6 年度医学部離任式

令和7年3月31日、本学を含む公的機関等に20年以上勤続し、令和6年度末で退職となる医学部所属の方々の離任式を挙行了しました。式では、退職者紹介の後、小泉修一医学域長・医学部長および木内博之病院長が、退職者の永年の功勞に対し感謝の言葉を述べました。その後、退職者がそれぞれ挨拶し、総務課、看護部、薬剤部など、様々な部署の在職職員が花束を贈呈し、盛大な拍手を送りました。式終了後には出席者同士で記念撮影を行うなど、和やかな雰囲気ではじまりました。



左から、仙洞田医療支援課長補佐、山本医療情報課医療情報企画室長、浅川医療情報課長、小泉医学域長・医学部長、木内病院長、松川麻酔科学講座教授、端産婦人科学講座准教授、石山手術部准教授

令和 6 年度医学部キャンパス消防訓練について

防災・災害対策室

当院は、火災が発生した場合に大きな人命被害をもたらす可能性が高い施設であり、日頃から火災に備えて万全の体制を構築する必要があります。このため、消防・防火管理体制の強化と消防・防火に対する意識の高揚を図ること、人的被害を最小限に抑えることを目的として、毎年消防訓練を実施しています。

令和6年度の訓練は、令和7年3月11日（火）に、外来診療棟1階「在宅消耗品受渡窓口」に不審者がガソリンを撒いて放火し、火災が発生する想定で、火災通報（連絡）、非常放送、自衛消防隊による初期消火、外来患者さんおよび来院者の避難誘導等の訓練を行いました。現在改定中である「防災・災害対策マニュアル」の指針に基づき、現実に即した内容で、緊張感のある訓練となりました。

訓練終了後は、救急外来ピロティにて、施設担当職員に指導を受けながら消火栓を用いた放水訓練を実施しました。新型の消火栓を

用いて、実災害時における消火作業に即した使用方法を習得することで、各自の防災意識が向上しました。

今後も様々な訓練を実施し、「防火・防災対策」および「災害発生時の安全確保」により一層取り組んでまいりますので、皆様のご理解・ご協力を賜りますようお願いいたします。



これからの感染症対策

感染症学講座特任教授 井上 修

令和7年3月16日（日）に本学感染症学講座と山梨県医学検査学会との共催で市民公開講座「感染症に負けない。」を甲府市にあるかいでらすにて開催し、これからの時代の感染症対策についてお話ししました。

コロナ禍も既に5年が経過し、現在では、二人に一人は罹患した全く珍しくない病気となりました。このままただの風邪の一つに位置付けられたら最高ですが、現時点ではまだそのレベルにはありません。新型コロナウイルスにかかわらず、感染症に罹患すると、シニア世代では衰弱や誤嚥性肺炎が問題となり、悲しい転帰をたどるケースが珍しくありません。若い世代でもコロナ罹患後に易疲労感などの諸症状に悩まされ、就業が続けられなくなるケースもあります。重症化リスクの低い世代にあっても感染症に罹らないことが絶対に良いのです。

感染症の流行中は、マスク着用や手指衛生などの基本的感染対策を励行することで感染

リスクを減らすことが期待できます。また、ワクチンによって重症化が予防できる病気も以前より増えてきています。これからの時代の感染症対策は、誰かに勧められて始めるのではなく、生活の中に基本的な対策を自然に溶け込ませることなのだと思います。



山梨県内におけるピアサポートの取り組み

医療安全学講座教授 荒神 裕之

ピアサポートは、有害事象への関与などにより心理的な傷や自責の念を負う医療者に対して、医療者同士の声かけなど、仲間による支え合いを実現する場を推進する活動です。当講座では、山梨県「心のサポート構築支援事業」補助金に基づき、ピアサポートの普及や実装に向けた研修会の開催や啓発動画の作成などに取り組んでまいりました。5年間の事業満了に際し、「ピアサポートで医療者を救う！—5年間の活動総括と未来への展望」と題した総括的研修会をオンラインで開催しました。今回、医療ピアサポートの国内第一人者でもある浜松医科大学法学教授の大磯義一郎先生をお招きし、ピアサポートシステムの定着にむけて、患者サポート体制充実加算のような診療報酬で評価される枠組みの必要性や、ピアサポート活動を推進する人員の配置についての提言などのお話をいただき、講演の後には、山梨県内医療機関で医療安全を

担う方々を中心に活発な議論が展開されました。本事業は終了しましたが、今後は、一般社団法人山梨医療安全研究会の活動と協働し、山梨県内における医療ピアサポートの普及活動を継続してまいります。

ピアサポートシステムの定着にむけて

日本医療安全学会理事長
浜松医科大学医学部法学教授
日本医科大学医療管理学教室客員教授
帝京大学医療情報システム研究センター客員教授
大磯 義一郎

病院再整備事業について

病院経営企画課 再整備企画グループ

病院再整備事業は、令和5年2月にⅢ期棟である診療支援棟が竣工しました。現在、旧病棟の取り壊しや駐車場移設等、医学部キャンパス内の再整備事業を実施しております。

■旧西病棟の取り壊し着工

令和6年12月から、旧西病棟の取り壊し工事を着工しました。安全に配慮し工事を進めております。工事完了後の空き地の活用方法については、再整備事業と併せ、今後検討を行ってまいります。



■看護師宿舎 A 棟跡地の駐車場の整備

令和2年度に閉鎖しました看護師宿舎 A 棟を取り壊し、職員駐車場の整備を行い、令和7年3月から運用を開始しました。旧西病棟取り壊し工事に伴い、駐車場が縮小されご不便をお掛けしておりましたが、新たに 232 台の駐車スペースを設けたことで駐車場不足が解消されるとともに、病院に勤務する職員の利便性が向上しました。また、背の高い樹木が撤去されたことで、見晴らしが良くなり開放感あふれる景観となりました。皆様に新たな駐車場をご活用いただければと思います。



今後とも再整備事業にご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

第2回安全活動コンテスト開催

令和7年2月12日、第2回安全活動コンテストが行われ、医療チームセンター、がんセンター、3階西病棟、産婦人科・4階北病棟・手術部より、各部門における医療安全に関する取り組みについて発表していただきました。

◇ 医療チームセンター

発表者 亀谷広実看護師

摂食嚥下支援チームは、「窒息事例の対策チームとして活動を強化」、「入院患者の摂食嚥下に関するスクリーニングの確立」、「摂食機能療法の実施体制の確立」を目指して活動しています。この度、昨年9月に入院支援センターの協力を得て「新摂食嚥下評価シート」で実態調査を行い、その結果を報告させていただきました。今後も病院職員皆様と力を合わせ、チーム活動を行っていきたいと考えています。



◇ がんセンター

発表者 大芝まゆみ看護師長

令和6年度の安全活動コンテストにがんセ

ンター（旧総合がん診療部：看護単位）として応募いたしました。当部署は、通院治療センターや放射線治療部門、CT・MRI、がん相談支援



センターといった複数の部門で構成され、勤務するスタッフも様々です。その中で、多職種が協働して医療安全を考え、対応した取り組みで、今回、皆様からご評価いただき、日々のやりがいにつながりました。今後ともよろしくお願いいたします。



◇ 3階西病棟

発表者 山下湧大看護師

この度は、3階西病棟での医療安全への取り組みについて発表する機会をいただきありがとうございました。保護室でのインシデントを振り返ることで、これまで気が付かなかった問題点の抽出ができ、病棟全体で医療安全に取り組むことができました。また、精神科病棟という閉鎖的な環境を他部署のスタッフに知ってもらう良い機会になったと感じています。今後も病棟全体で安全な医療を提供するために活動していきます。



◇ 産婦人科・4階北病棟・手術部

発表者 堤愛助産師

この度は、発表する機会を与えてくださり、ありがとうございました。超緊急帝王切開シミュレーションは、限られた人員と時間の中で一刻も早く児を娩出することを目的としています。産婦人科や手術部をはじめとする他部署と、実施毎に傾向と課題を話し合いながら臨床場面に活かしています。今後も母子ともに安全・安心な分娩を目指して活動を続けてまいります。



令和7年度新部門長等の紹介

令和7年4月1日現在

病院長・副病院長・病院長補佐・病院長特別補佐

病院長	副病院長							病院長補佐				病院長特別補佐
	労務管理・保険診療・病床管理	安全管理	再整備	臨床研究・放射線・栄養	教育	看護・患者サービス	総務	救命救急・診療	感染	防災・危機管理	病院経営	
木内 博之	波呂 浩孝	川村 龍吉	中島 博之	市川 大輔	桐戸 敬太	杉田 俊江	石原 昭	佐藤 明	副島 研造	森口 武史	小林 美亜	塩島 正弘

中央診療部門等

部門名	部長等	副部長等	部門名	部長等	副部長等	部門名	部長等	副部長等
検査部	井上 克枝	高野 勝弘 風間 文智	医療チームセンター	飯嶋 哲也		感染制御部	井上 修	
手術部	中島 博之	池本 剛大	生殖医療センター	吉野 修		薬剤部	鈴木 貴明	橋田 文彦 小林 みわ子
放射線治療部	大西 洋	小宮山 貴史	肝疾患センター	前川 伸哉		総合支援部	波呂 浩孝	三井 貴彦 市川 二郎 山本 智子
放射線診断部	森阪 裕之	荒木 拓次	口腔インプラント治療センター	上木 耕一郎				
放射線技術部	池川 博昭	館田 良仁 池長 聡	遺伝子疾患診療センター	石黒 浩毅	矢ヶ崎 英晃			
材料部	櫻井 大樹		脳卒中・循環器救急センター	佐藤 明	中島 博之			
輸血細胞治療部	井上 克枝	高野 勝弘	リウマチ膠原病センター	波呂 浩孝	川村 龍吉 中込 大樹 中尾 篤人	業務支援センター	松原 寛知	
救急部	森口 武史		アレルギーセンター	櫻井 大樹	三井 広 松岡 伴和	医療福祉支援センター	三井 貴彦 市川 二郎	
集中治療部	森口 武史	後藤 順子	IVRセンター	荒木 拓次	岡田 大樹	地域医療連携センター	市川 二郎	
新生児集中治療部	犬飼 岳史	小鹿 学	てんかんセンター	加賀 佳美	佐野 史和	臨床教育部	板倉 淳	矢ヶ崎 英晃
病理部	近藤 哲夫	望月 邦夫	産前産後ウェルビーイングセンター	石黒 浩毅	奥田 靖彦	臨床研修センター	矢ヶ崎 英晃	橋本 幸治
分娩部	奥田 靖彦		脊椎脊髄センター	波呂 浩孝	大場 哲郎 館岡 達	専門医キャリア支援センター	土屋 恭一郎	橋本 幸治
リハビリテーション部	波呂 浩孝	八木野 孝義	がんセンター	市川 大輔	桐戸 敬太	臨床実習センター	川端 健一	
血液浄化療法部	中島 歩	後藤 順子 高橋 和也 澤田 智史	子宮内膜症ケアセンター	吉野 修	松原 寛知	特定行為研修センター	波呂 浩孝	川端 健一 矢ヶ崎 英晃 蓮沼 知津子
光学医療診療部	高野 伸一	小林 祥司	初期救急医療センター	森口 武史		シミュレーションセンター	加賀 重亜喜	
総合診療部	針井 則一	中村 和人	病院経営管理部	小林 美亜		医療スタッフ研修センター	川井田 博充	
臨床研究連携推進部	望月 修一		栄養管理部	土屋 恭一郎		山梨県地域医療支援センター	土屋 恭一郎	橋本 幸治
臨床工学部	中島 博之	望月 仁	医療情報部	森口 武史	小林 美亜	東部地域医療教育センター	榎本 信幸	山口 達也
			医療の質・安全管理部	荒神 裕之	青木 真里	働き方改革センター	中島 歩	
						病床管理室	三井 貴彦	中村 貴光 白石 謙介 櫻本 かおり

看護部

看護部長	副看護部長				
	総務担当	人事担当	教育担当	業務担当	質保証担当
杉田 俊江	大門 恵美	穴水 美和	小泉 夫美子	山本 智子	北井 朋美

部門名	看護師長	副看護師長	部門名	看護師長	副看護師長
がんセンター	大芝 まゆみ	青柳 しづか、河田 綾	NICU 病棟	清水 陽子	藤井 愛、山本 明奈
治験センター	永田 明子		GCU 病棟	寺島 由美子	杉本 美貴、手塚 浩美
医療チームセンター	金丸 明美 武田 陽子	堀井 悠	2階西病棟	茶谷 直子	三枝 栄江、深沢 泉、渡邊 裕美
医療情報・診療報酬担当	鈴木 聖美		3階西病棟	金丸 紀子	辻 稔、長田 和子、手塚 絵里子
人事担当	萩原 千代子		4階西病棟	山本 瑠実	青柳 恵子、土橋 怜奈、田草 裕美子
教育担当	竹田 礼子	齊藤 渚、青木 絵梨子	5階西病棟	山本 秀美	伊藤 祥子、立澤 真子、土屋 公二
臨床教育部	蓮沼 知津子		6階西病棟	牧野 基美	八巻 真美、小林 可奈子、石坪 真佑見
臨床教育部 特定行為研修センター	谷戸 るみ		7階西病棟	内田 純子	茂手木 智美、松岡 都、庭山 梢、入倉 悠
外来	坂野 雅子 山本 ゆかり	神田 藍、名取 佐知子、佐藤 紗希	4階南病棟	金子 春美	大久保 香織、望月 沙織、上原 良江
看護補助者担当	大森 ゆかり		5階南病棟	清水 美紀	土屋 一枝、神宮司 文、渡邊 祐将、日向 恵
業務担当	田邊 玲子		6階南病棟	伊藤 由香	小林 ひとみ、小池 美和、松田 旬美
総合支援部 地域医療連携センター	藤原 由理香	河西 久美子、粕山 史穂、弦間 まみ、小野田 麻由美	7階南病棟		
病床管理室	榎本 かおり 三平 まゆみ		4階北病棟	長澤 良美	橋本 瑞季、望月 文香、中込 美幸
材料部	渡邊 理映子		5階北病棟	山中 浩代	あゆみ、石川 恵理、木村 慶太
物流センター	伊藤 雅美		6階北病棟	河西 典子	高橋 真貴、市川 さやか、飯嶋 彩子、長澤 美佐子
集中治療部	戸栗 宏子	川口 優里奈、大村 希依、小倉 幸子、中柄 創和、坂本 友紀、近藤 健	7階北病棟	相川 真弓	浅野 ともみ、今川 茉莉恵、秋山 友梨
手術部	磯野 絵美	内田 峻介、溝口 真由美、熊谷 奈美、家崎 美穂、鶴田 愛			
ER	松土 裕子	八代 佳奈枝、梶原 望、山本 雅弘、大沢 有紀			
初期救急医療センター	杉山 千里				
総合支援部 医療福祉支援センター	岩澤 久美	東雲 由希			
医療の質・安全管理部	青木 真里	橋本 佳奈子			
感染制御部	矢崎 正浩	野澤 ゆい			

事務部

副理事兼事務部長	特命部長	特命参事	課・室名	課・室長	補佐・専門員	課・室名	課・室長	補佐・専門員
石原 昭	京嶋 信昌	土屋 豊	総務課	笠井 秀二	細野 幸一、武井 幸子	医事課	四氏 裕一	小林 静
			臨床教育支援室	早川 弘美		医療情報企画室	末木 基之	
			学務課	平 洋子	加賀美 知美	医療支援課	根本 栄一	渡邊 佐和子
			経理管理課	萩原 正直	海老名 庸	医療スタッフ支援室	浅川 辰仁	
						病院経営企画課	井上 心	阿部 勉